

境A遺跡出土 大珠2点他 計18点複製

富山県埋蔵文化財センター所蔵
重要文化財指定
考古資料・複製



透明感をだすのに苦労しました。

富山県と新潟県の県境に位置する宮崎海岸に面する丘陵上にある境A遺跡は昭和58年から60年にかけて発掘調査された、縄文時代の中期から晩期までにおよぶ集落跡です。数多くの遺構や遺物がみつかりましたが、とりわけ蛇紋岩製の石斧とヒスイを用いた玉類が多量に出土し、“石器製作工人のむら”が現れました。ヒスイの玉類は大珠（たいしゅ）、勾玉（まがたま）、管玉（くだたま）、挾状耳飾（けつじょうみみかざり）、垂玉（すいぎょく）などに分類され、竹などの柔らかい道具で垂飾のための孔があげられています。また、多くのヒスイ原石や製作途中の製品に加えて、仕上げ用の砥石なども出土しており、製作工程を知ることができます。このような遺跡は新潟県の姫川や青海川の近辺にかけて分布しており、ここで生産されたヒスイの玉製品は日本列島の各地に運ばれていきました。

KYOTO KAGAKU CO.,LTD
Preservation and Restoration of Cultural Property

tel.075-605-2510
fax 075-605-2519
rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp

<http://www.kyotokagaku.com/jp>
rw-kyoto@kyotokagaku.co.jp